

生態系被害防止外来種リストの見直しの検討事項等について

1. 生態系被害防止外来種リストの見直しに係る検討会におけるこれまでの決定事項と主な議論等

(1) 見直しの方向性と決定事項

2023（令和5）年より実施している検討会において議論があったリストの見直しの方向性については以下のとおり。

項目	決定事項
見直しに係るスケジュール	・2025年度末までにリスト見直しを完了する。 (本資料末尾スケジュール参照)
作成手順、選定基準等について	・現行リストの作成方法を踏襲することに異議はなし。 ・特定外来生物に指定されているものについては全て掲載する。 ・加除対象候補種を含め、候補種リストは事務局で検討し、WG・検討会の委員からも提案いただき検討する。
最終的にリストに追加しなかった候補種について	・リストとは別に、掲載可否評価項目ごとの評価と併せて公表する予定とする。
カテゴリ区分及び名称について	・下表（黄色着色部分）のとおり変更。

★変更後のカテゴリ枠組及び名称

現行リスト	【新リスト】
定着予防外来種 侵入予防外来種 その他の定着予防外来種	侵入・定着防止外来種 侵入予防外来種 定着防止外来種
総合対策外来種 緊急対策外来種 重点対策外来種 その他の総合対策外来種	総合対策外来種 防除推進外来種 防除検討外来種
産業管理外来種	産業管理外来種

注：緊急対策外来種と重点対策外来種は統合される。

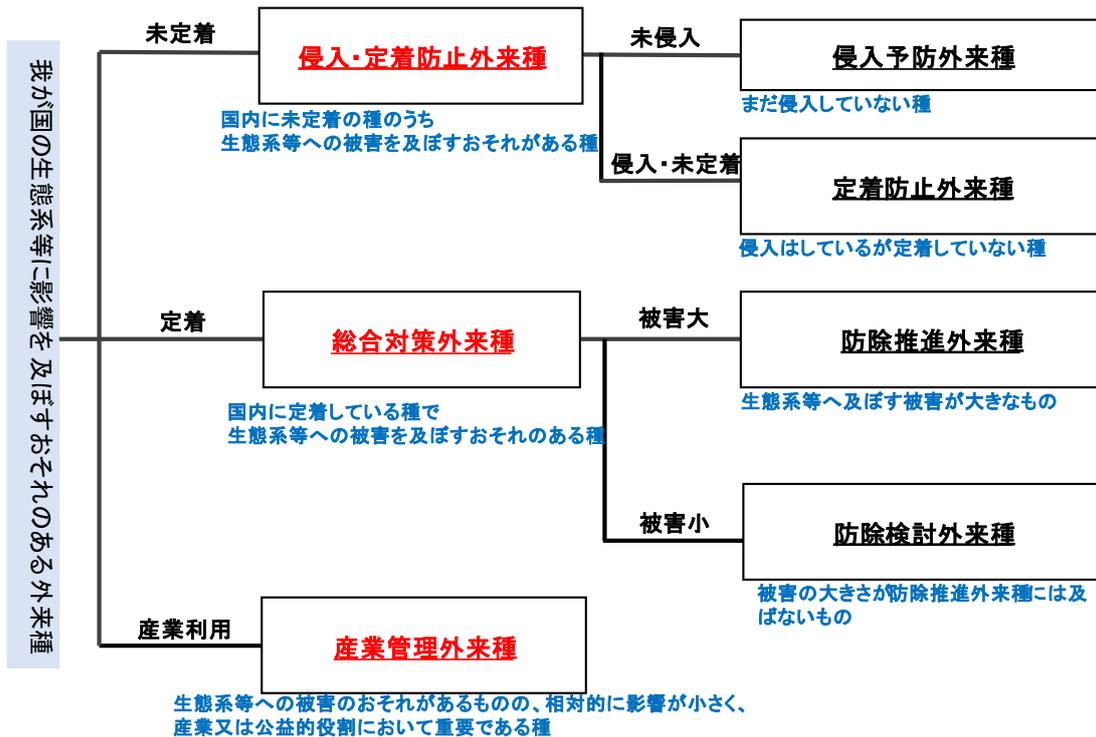
※大カテゴリの定着予防外来種を、「侵入・定着防止外来種」に名称を変更。

※小カテゴリのその他の定着予防外来種を、「定着防止外来種」に名称変更。

※総合対策外来種のうち、「緊急対策外来種」と「重点対策外来種」の区分を統合。

その生態系等への被害の深刻度のみにより、防除に優先的に取り組むべき「防除推進外来種」と、それよりも優先度が低い「防除検討外来種」（旧名称：その他の総合対策外来種）の2区分に分類。

各カテゴリの概要



(2) 令和5年度検討会における意見及び検討事項等への対応案について

令和5年度検討会において、リスト見直しに関するご意見と検討事項のうち、対応と今後の検討予定については以下のとおり。

1) 今回の提案事項

項目	検討事項等
分類群ごとの分担作業	<p>(第1回ご意見) WG 未実施の分類群の担当者を明確化すべき。</p> <p>➡本検討会をもって提案したい。</p> <p>哺乳類：亙委員、鳥類：川上委員、両生・爬虫類：石橋委員、昆虫類・陸生節足動物：石井委員、その他無脊椎動物：岩崎委員、中井委員</p> <p>いくつかの分類群は必要に応じて別途専門家にヒアリングを想定。</p>
種の名称の記載方法について	<p>(第2回ご意見) 和名とともに流通名なども明記すべき。</p> <p>➡植物において、流通名及び別名等を記載されており、動物でも同様の手順をとることで作業を進めている(2. 表示内容の見直し 参照)。</p>
新たに考慮すべき評価項目について	<p>(第2回ご意見) 人獣共通感染症による影響を考慮。</p> <p>(同) 今でも逸出が続いているものについて考慮。</p> <p>(同) 捕食者としてだけでなく、被食者としての側面による影響を組み込むことを考慮。</p> <p>➡感染症については付加情報に掲載を想定。詳細項目の書きぶりの修正や加筆を実施(資料3-2 参照)。</p>
要注意外来生物について	<p>(第2回ご意見) かつて要注意外来生物に指定されていた説明は残っていてもいいのでは。</p> <p>➡当該説明は、要注意外来生物リストの発展的解消と生態系被害防止外来</p>

	種リストの作成に伴う情報の連続性を担保するための措置であり、現在は必要性がなくなったため、基本的には削除とする方向としたい。
導入という用語の使い方について	<p>(第2回ご意見)「導入」という言葉には人が持ち込むという印象があるため、誤解のないように導入可能性という文言は、侵入可能性に変更すべきだ。</p> <p>(第1回魚類WGご意見) 導入とかは一般の方には分かりにくいと思うので、例えば放流とか、そういう言葉に置き換えたらどうか。</p> <p>⇒分かりやすい表現については、行動計画の状況も踏まえつつ、必要に応じて検討する。</p>

2) 次回以降に検討予定の項目等

項目	ご意見の概要及び検討事項等
リストの名称について	<p>(第1回ご意見) リストの正式名称が非常に長いため、「ブラックリスト」や「ブルーリスト」等の簡易的な名称を設けた方が良い。</p> <p>(同)「ブルーリスト」とした場合、一部から反発もあり得る。</p> <p>⇒現状事務局では特段名称案なし。ご意見あれば適宜検討。</p>
評価基準の交雑の位置づけについて	<p>(第2回ご意見) 交雑は生態系被害ではなく、遺伝資源に係るものである。強調の仕方を工夫した方が良い。</p> <p>⇒具体的な記載についてご意見あれば適宜検討。</p>
上位分類群(科、属等)で指定されている特定外来生物について	<p>(第2回ご意見) 各種の定着状況に応じて、カテゴリを整理した方がよい。</p> <p>⇒対応予定。次回検討会時に各掲載種のカテゴリ提示を想定。</p>

2. 表示内容等の見直し案の提示（検討事項）

（1）生態系被害防止外来種リスト 表示内容の見直し案

現行リスト	改定リスト
本体	
<ul style="list-style-type: none"> ・和名 ・学名 ・分類群 ・選定理由（I～IV（動物）、I～V（植物）の番号で整理） ・カテゴリ区分 ・定着段階（未定着／定着初期／拡大期～まん延期の3段階で整理し、限定分布の場合は定着初期にその旨記載。また、感染症・寄生生物の場合、小笠原・南西諸島に分布している場合、国内由来外来種の場合はその旨の記載） ・特定外来生物か否か ・旧要注意外来生物か否か <p><総合対策外来種の場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策優先度の要件（①～⑤の番号で整理） 	<ul style="list-style-type: none"> ・和名（<u>別名、流通名</u>） ・学名 ・分類群 ・選定理由（I～IV（動物）、I～V（植物）の番号で整理） ・カテゴリ区分 ・防除事例及びマニュアルの有無 ・定着段階（未定着／定着初期／拡大期～まん延期の3段階で整理） ・日本での分布 ・国内由来外来種か否か ・特定外来生物か否か (削除) ・要緊急対処特定外来生物か否か <p><総合対策外来種の場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策優先度の要件（①～④の番号で整理）
付加情報（別紙）	
<ul style="list-style-type: none"> ・掲載可否評価項目毎の評価（○、◎、－で整理） ・原産地及び国外分布 ・日本での分布 ・生息環境等（「森林」、「河川」等） ・利用状況 ・利用上の留意点 ・備考（定着理由、具体の被害状況等の情報を雑多に整理） ・リスト掲載根拠（特定外来生物か否か等） ・文献等 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載可否評価項目毎の評価（○、◎、－で整理） ・国際機関作成リスト掲載種か否か ・都道府県作成リスト掲載種か否か ・原産地及び国外分布 (削除) ・生息環境等（「森林」、「河川」等） ・利用状況 ・利用上の留意点 ・防除事例 ・防除マニュアル ・文献等 ・他法令での位置付け ・関係する感染症名 ・備考（定着理由、具体の被害状況等の情報を雑多に整理）

※波下線はパンフレット（普及啓発資料）の掲載情報。

【主な修正提案】

○各掲載種の防除実行可能性に係る簡易提示及び防除戦略・手法の確立の有無、防除実績の有無を表示。

- －「防除戦略・手法」：国、地方公共団体等により公にされている防除計画の作成や防除手法等に係るマニュアルが存在するのであれば、その情報を整理する。
- －「防除事業の実績」：国や地方公共団体、民間団体による防除事業の実施状況（計画策定状況、交付金・専門家派遣等の支援活用状況、防除の公示・確認・認定状況等）を踏まえ、国内防除の実績の有無を判断し、情報提供する。

○通称名がある種については、通称名も併記。

○各掲載種が媒介等する感染症（人獣共通感染症を中心に）がある場合には、その名称を表示。

(2) 生態系被害防止外来種リスト 侵略性に係る評価項目及びその評価基準見直し案

<侵略性に係る評価項目及びその評価基準 (橙字が現行リストからの更新) >

大項目	小項目	詳細	評価が「◎」となる該当例
(1)定着可能性	(1)-1 生物学的定着可能性	我が国の気候や環境に適合できるか、国内で繁殖できるか等	古くから利用されておりかつ未定着のもの(イネ等)以外の多くの種
	(1)-2 導入国内侵入の可能性	生体・散布体が大量に輸入されている、輸入物資に大量に混入・付着している可能性が高いか、 意図的導入がなされ、その後逸出の可能性 があるか等	一般飼養されている動物(フェレット)や、観賞・植栽用の植物
(2)生態系被害	(2)-1 競合	在来種との競合が国内外で報告されているか、高密度化、優占、他種の生育阻害があるか	生育場所を覆う植物、カワヒバリガイ
	(2)-2 交雑	国内に同属、近縁の在来種があり、交雑による遺伝的攪乱の可能性はあるか	在来種・絶滅危惧種との交雑が報告されている種
	(2)-3 捕食・摂食 ※動物のみ	在来種を大量に捕食、摂食する可能性があるか	多くの捕食性動物や、ザリガニ類など広食性の動物
	(2)-4 生態系改変	食物連鎖の改変(被食者としての他の生物種への影響含む)、礫河原等での定着、砂の堆積・浸食、富栄養化等があるか	窒素固定をするマメ科、干潟を草原化するスパルティナ等
(3)分布拡大・拡散	(3)-1 繁殖	繁殖力が強く分布拡大抑制が困難か	(国内外で報告されている多くの種が該当)
	(3)-2 気候	気候・環境に適合し分布拡大の可能性が高いか	(我が国の気候は多様であることから多くの種が該当)
	(3)-3 散布	種子もしくは幼生の散布距離が大きい、分散能力が大きいか	種子や栄養体が風や水により移動散布される種
	(3)-4 永続性 ※植物のみ	自然環境下で個体群が永続的に維持されるか	耐陰性が高い種、水辺で長期間繁茂する種、寿命が長い種
(4)重要地域		国立公園や世界自然遺産地域等の原生的自然、固有種・絶滅危惧種の生息・生育地への影響の有無	希少種の集中地域に定着しているノネコ、オオヒキガエル、オオハンゴンソウ
(5)特に問題となる被害	(5)-1 人体	人に重度の障害や重傷を負わせる、重篤な被害(誤食による中毒や麻薬になる、 感染症の媒介等)をもたらすか	台湾ハブ、セアカゴケグモ、アツミゲシ
	(5)-2 経済産業	農林水産業等の産業・経済に深刻な被害を及ぼしている、またはその可能性が高いか	農作物に経済的な被害をもたらすアライグマやオオクチバス、水利用の障害となる水草
(6)逸出・拡散	(6)-1 利用	生餌、野外飼育等の利用がなされている、または、野外放流、播種がなされているか	放流がなされているニジマス、緑化利用されるハリエンジュ
	(6)-2 付着・混入	流通する物資等に混入、付着している可能性が高いか	放流種苗に混入するブルーギル、動物に付着する種子を持つアレチヌスビトハギ

▼評価基準(4段階)

「◎」…情報が有り、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」。
「○」…情報が有り、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」。
「×」…情報が有り、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」。
「－」…現時点では、該当する情報を得ていない。

(3) 総合対策外来種の説明及び方向性の見直し

カテゴリ名称と構成について、第2回検討会及びその後の意見照会の結果を踏まえて決定した(1. (1)参照)。このうち「総合対策外来種」については、「緊急対策外来種」と「重点対策外来種」が統一されたこと等を踏まえ、総合対策外来種のカテゴリ区分の説明と方向性について、以下の通りとしたい。

1) 総合対策外来種

①防除推進外来種

被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当する種。特に緊急性が高く、各主体がそれぞれの役割において、防除目標を設定の上、他の防除事例等も参考に積極的に防除を行う必要がある。

②防除検討外来種

防除推進外来種に該当しない種。地域ごとの被害状況や対策の実行可能性に応じて、必要な対策を行う必要がある。

<対策優先度の要件(被害の深刻度に関する基準)>

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

<参考>WG・検討会のスケジュール（予定）

年	会計年度	月	作成段階	検討会開催	魚類WG開催	植物WG開催	その他	(参考)行動計画見直し作業(9/17案)		
2024	2023	2	作業方針作成	第2回				方向性作成		
		3	リスト加除候補種の抽出					改定案作成		
	2024	2024	4						↓ 改定本編・普及啓発資料公表 別冊更新・付録作成	
			5				加除要望受付	} 関係者説明会開催		
			6							
			7							
			8			第1回	第1回			第3回検討会
			9		第3回					
			10	付加情報含めた改定案作成						
			11							
			12		第2回	第2回				} パブリック・コメント
			1		第4回					
2025	2024	2						第4回検討会		
		3	全体とりまとめ							
		4								
	2025	2025	5							
			6		第5回					
			7	改定案修正案作成					} パブリック・コメント	
			8							
			9							
			10		第6回					
			11							
			12	普及啓発資料作成						
			2026	2025	1					
2										
3	改定リスト・普及啓発資料公表							別冊・付録公表		
2026	4									

※会議開催の回数は通しカウントによる

※2024年度における作業は以下のとおり進行。作業各会議前には資料確認の時間を十分に確保する

- 1) リスト加除候補種の抽出(事務局による作業)
- 2) 候補種の再評価(カテゴリ区分も同時評価)(検討会による作業)
- 3) 継続して掲載する種の情報の見直し(事務局・検討会による作業)
- 4) その他付加情報の整理(事務局・検討会による作業)